

# 震災から10年、 「つながり」が実を結んだ全国児童館・児童クラブみやぎ大会

5月に完全オンライン開催に方向転換し、よくぞ11月の本番を迎えることができた！と心底感じた宮城大会でした。全国より870名の参加がありました。震災から今日までの映像による復興の様子と、サンドウィッチマンからのメッセージ、シンポジウム、基調講演者は野澤令照宮城教育大学特任教授と瀧靖之東北大学教授、そして仙台・石巻・名取・東京会場による13分科会を一日に凝縮して発信できました。大きな原動

力は、何といても垣根を超えた人の輪でした。「子どもを真ん中に」を掲げ、児童館&児童クラブは何をするべきか、寄り添う大人がどの様に子どもの力を引き出していくのか。行政との協働、企業や社会からの協賛、児童福祉と社会教育の融合が仙台・宮城の子ども居場所である「児童館」から発することができたのではないのでしょうか。何よりチームみやぎの要として、若い力がさく裂した本大会に感銘を受けました。

## 【実行委員】

今回の大会は、正直なところ、児童館・児童クラブのスタッフ力だけでは到底できませんでした。企業、自治体、団体の枠を越え、侃侃諤諤と議論を重ねたからできたものだと感じました。この職種はどうしても自分の居る地域、職場のみの視点になり、自然と視野が狭くなってしまいがち。でも「子どもたちには、なるべく視野を広げ、色々なことを知ってチャレンジしてほしい」と、スタッフの皆は思っているのではないのでしょうか。そのためにも、まず自分の視野を広げなければ！今回実行委員として様々な方々と関わり、自分の知見の狭さを痛感しました。本当に沢山の事を学ばせてもらい、次につなげていかなければと思いました。

(榴岡児童館 まーぼー)



## 【第3分科会】

全国大会の企画委員になり、メンバーたちと一緒にいろいろな企画・運営に取り組むことができました。どのメンバーも「子どもたちのために何ができるか？」をメインに考え、行動している方々ばかりで、頼もしい仲間が自分の周りにたくさんいることにも気づくことができました。この1年間は長いようであつという間でした。コロナ禍の影響でリモート開催になるなど、様々な克服課題がありました。宮城からのメッセージを多くのおみなさんに届けたいという強い熱意と熱い協力で前進することができました。これからはこの全国大会での学びを児童クラブの仲間とも共有し、より良い児童クラブ作りにみんなで取り組んでいきたいと思います。

(成田小児童クラブ 石森ももこ)



## 【第7分科会】

この大会を通じて、学びと知見を深めるきっかけを掴むことができた。ミーティングの段階から市民協働のテーマが協議され、正直ついていくのが精一杯であったが、このままでは何も変わらないと思い自分から準備できることに最善を尽くそうと切り替えることができた。準備段階を経て、「つながり」をテーマに壮大な経験をすることができた。本番当日は、リモートで進行する内容だったので、相当緊張した。グループワークでは現在抱えている悩みや挑戦したいことをテーマに、其々の思いを共有できた。全国大会を経験して、未来に結び付く「つながり」を実現するため、自分にできることを小さくとも実践していきたい思いが強くなった。子どもや保護者、地域や学校との関り、職員同士のコミュニケーションなど、お互いに心の充足感を感じられるように初心に戻って挑戦していきたい。

(新田児童館 阿部雅弘)

## 【第9分科会】

私は今回、企画委員として本大会に参加しました。そこで、宮城県内の児童館職員との協力や繋がりに触れ、次世代のスタッフの可能性を強く感じました。突然の完全オンライン開催に変更になった時も「やれることをやろう」「やめるのは簡単」と、なんとも心強い声があがりました。初めて会った者同士なのに、素早い連携とお互いの想いや価値観を認め、高め合っていく姿は感動ものでした。本番当日も「大丈夫！これだけ準備してきたのだから」とスタッフ同士の励まし合いもありました。大会はもちろん大成功。未来の子どもたちのために同じ方向を向いていました。大会のテーマが「つながる」だったので、宮城県の児童館職員同士の繋がりもさらに太く、逞しくなったように感じました。この繋がりは今後も大切にし、また大きなことにチャレンジしたいね！なんて声もでています。大変だったけど、とてもやりがいを感じる日々でした！

(ジュン & マーサ)